

令和元年度事業報告

I. 事業の状況

1. 奨学事業

(1) 奨学生の選考及び決定

平成 31 年 4 月 9 日開催の選考委員会において、推薦を依頼した指定 25 大学からの奨学生候補者について審査の結果、下表のとおり、一般奨学生 34 名（学部 18 名、大学院 16 名）、特別研究奨学生 5 名の計 39 名を新規に採択し、理事長はこれらを第 18 期小林奨学生として決定し、それぞれの大学に通知した。

これにより、平成 31 年度（第 18 期）の奨学生は、新規採択奨学生 39 名に継続の奨学生 31 名を合わせ、計 70 名となった。

内訳：

| 種 別 | | 新規採択者 | 前年度からの継続者 | 計 |
|-----------|-----|-------|-----------|----|
| 一 般 奨 学 生 | 学 部 | 18 | 4 | 22 |
| | 大学院 | 16 | 17 | 33 |
| 特別研究奨学生 | 学 部 | | | 0 |
| | 大学院 | 5 | 10 | 15 |
| 計 | | 39 | 31 | 70 |

(2) 奨学金の支給

ア. 奨学金贈呈式

令和元年 6 月 7 日に新規奨学生への贈呈式を行った。

イ. 奨学金の支給

奨学生に対し、一般奨学金（学部生月額 15 万円、大学院生月額 18 万円）、特別研究奨励金（月額 20 万円）をそれぞれ 4 月から 1 年間支給した。

(3) 学業に関する報告及び生活状況報告

令和 2 年 1 月、奨学生の勉学の状況・成果の報告、生活状況報告を求めた。

(4) 令和 2 年度奨学事業関係

令和 2 年 1 月 31 日付けで、令和 2 年度奨学生候補者の推薦を 25 大学の長あて依頼した（推薦期限は、3 月 6 日）。

2. 交流活動事業等

(1) 奨学生交流会

奨学生交流会を、財団役員、評議員、選考委員及び評議員選定委員の出席を得て次のとおり開催した。

第 1 回 令和元年 6 月 7 日 第 18 期贈呈式・交流会

第 2 回 令和元年 9 月 12 日～13 日（1 泊 2 日の奈良研修旅行）

(なお、令和2年3月6日に開催予定を予定していた、第18期終了式・交流会は、「新型コロナウイルス」の感染状況に鑑み中止とした。)

(2) 「翼」の発行

奨学生相互間、奨学生と財団間の交流に資するための交流誌「翼」第18号を令和2年3月31日に刊行した。

3. 研究支援事業

(1) 研究助成事業

①公募期間：令和元年9月9日～10月18日

②令和元年12月17日開催の選考委員会において下記35件を採択し、理事長は、これらを研究助成受給者として決定し、各研究代表者に通知した。

| No | 氏名 | 所属機関及び職名 | 専門分野 | 研究テーマ |
|----|--------|---------------------------------|----------------|---|
| 1 | 小林 弘一 | 北海道大学大学院 医学研究院 教授 | 免疫学 | 緑黄色野菜抽出物による MHC class I 経路活性を介した癌予防効果の検討 |
| 2 | 松宮 朋穂 | 弘前大学大学院 医学系研究科 助教 | 感染免疫学 | 細菌特異的 RNA をターゲットとした新しい重症細菌感染症の治療法確立に向けた研究 |
| 3 | 有澤 美枝子 | 東北大学大学院 薬学研究科 准教授 | 分子薬科学 | 脳疾患改善薬開発のための新規創薬リード化合物の探索研究 |
| 4 | 塩野 義人 | 山形大学 農学部 教授 | 発酵制御学 | インドネシアの伝承薬「ジャムウ」を材料にした生理活性物質の探索研究 |
| 5 | 村田 幸久 | 東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授 | 応用動物科学・放射線動物科学 | 新規 ω 3 脂肪酸代謝産物の腸炎抑制効果の解明とその応用 |
| 6 | 松脇 貴志 | 東京大学大学院 農学生命科学研究科 助教 | 神経内分泌学 | 新規神経保護因子 Progranulin のてんかん治療薬としての試み |
| 7 | 鎌谷 洋一郎 | 東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授 | ゲノム医学 | 東アジア人に最適な遺伝的リスクスコアの開発を通じた全世界のゲノム医療への貢献 |
| 8 | 山西 吉典 | 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合 研究科 准教授 | 免疫学・アレルギー学 | 好塩基球によるアトピー性皮膚炎の誘導機構解明 |
| 9 | 西川 元也 | 東京理科大学 薬学部 教授 | 薬剤学 | 花粉症予防・治療のための抗原内包 CpG ゲルワクチンの開発 |

| | | | | |
|----|-------|-----------------------------------|-----------------------------|--|
| 10 | 久保 允人 | 東京理科大学 生命医科学研究所 教授 | 免疫学・ アレルギー学 | 食物アレルギーを対象とした新規予防薬の開発 |
| 11 | 定家 真人 | 東京理科大学 理工学部 准教授 | がん細胞生物学 | 天然化合物 AusD の生物活性に高い感受性を示すがん細胞の分子遺伝学的特徴の解明 |
| 12 | 中山 高宏 | 杏林大学 医学部 助教 | 分子神経化学 | 生薬抽出物の配糖化修飾体を用いた新しい依存症治療法の開発 |
| 13 | 米盛 勸 | 国立がん研究センター 中央病院 乳腺・腫瘍 内科 医長 | がん全般 | 卵巣明細胞がん患者由来 circulating tumor DNA の遺伝子異常の検討 |
| 14 | 田浦 太志 | 富山大学学術研究部 薬学・和漢系 准教授 | 生薬学・薬用 植物学・代謝 生化学 | 生合成酵素を活用した代謝工学により非天然型カンナビノイド類縁体を創出し、新たな医薬資源として開拓する |
| 15 | 當銘 一文 | 富山大学 和漢医薬学総合研究所 准教授 | 天然物化学・ 生薬学 | 単味生薬製剤の開発を指向した有用生薬からの活性成分探索とその定量分析法の確立 |
| 16 | 奥田 洋明 | 金沢大学 医薬保健研究域 医学系 准教授 | 機能解剖学 | 食用ビート成分による疼痛抑制作用の解明を介した新規疼痛抑制機序の探索 |
| 17 | 岩野 智彦 | 山梨大学大学院 総合研究部 (医学域) 助教 | 細胞生物学・ 解剖学 | 卵管上皮細胞の成熟および繊毛運動性に対する天然物由来イソフラボノイド類成分の効能とその機序の解明 |
| 18 | 喜井 勲 | 信州大学 農学部 准教授 | ケミカルバイオ ロジー | 糖尿病予防を目的とした食品由来機能性成分カテキンオリゴマーの研究開発 |
| 19 | 萬代 大樹 | 岐阜医療科学大学 保健科学部 講師 | 有機合成化学 | 天然物 (+)- テレインおよびその類縁体の結核菌に対する生物活性評価および作用機序の解明 |
| 20 | 檜井 栄一 | 岐阜薬科大学 教授 | 薬理学 | 運動器疾患に対する生理活性物質ポリアミンの予防効果 |
| 21 | 清水 広介 | 浜松医科大学 准教授 | 薬物送達システム (DDS) 分子 イメージング | 植物由来天然物成分の DDS 創薬による多発性硬化症治療薬の開発研究 |
| 22 | 牧野 利明 | 名古屋市立大学大学院 薬学研究科 教授 | 生薬学 | 生薬ジオウおよびニンジンの加熱加工による有用性向上メカニズムに関する研究 |

| | | | | |
|----|--------|-----------------------------|----------------|--|
| 23 | 伊藤 佐生智 | 名古屋市立大学大学院 薬学研究科 准教授 | 免疫学・細菌学 | 免疫活性化能を有する黄色ブドウ球菌毒素を見出し、これを標的としたアレルギー予防ワクチンを創製する |
| 24 | 里岡 大樹 | 滋賀医科大学 助教 | 免疫学 | iPS 細胞技術による抗原特異的 CD8 Treg の再生方法の確立とその自己免疫疾患治療への応用 |
| 25 | 土居 雅夫 | 京都大学大学院 薬学研究科 教授 | 生物薬学 | 脳内サーカディアンリズム中枢の G 蛋白質共役受容体シグナルを基盤とした睡眠調節機構の解明と創薬 |
| 26 | 潘 東青 | 京都大学大学院 薬学研究科 助教 | 構造生物薬学 | 真菌カンジタ属の多剤耐性獲得の原因トランスポーターの薬剤排出機構の解明 |
| 27 | 島村 達郎 | 京都大学大学院 医学研究科 特定講師 | 構造生物学 | 副作用の少なく効果の高い薬剤開発に役立つ抗ヒスタミン薬とヒスタミン H1 受容体との複合体の構造解析 |
| 28 | 齊藤 達哉 | 大阪大学大学院 薬学研究科 教授 | 免疫学 | 病原性細菌に応じて活性化する自然免疫機構の制御機序解明 |
| 29 | 坂井 信幸 | 神戸市立医療センター 中央市民病院副院長 | 脳神経外科・ 脳卒中 | 国内の脳血管内治療における抗血栓療法と周術期合併症に関する研究 |
| 30 | 市川 麻祐子 | 奈良県立医科大学 助教 | 産婦人科学 | リゾリン脂質経路を介した絨毛細胞機能への影響及び妊娠高血圧腎症の病理機序の解明 |
| 31 | 小谷 仁司 | 島根大学 医学部 講師 | 生薬学・免疫学 | 抗腫瘍効果を示す天然物由来 T 細胞活性化物質の探索と活性化機序解析 |
| 32 | 加来田 博貴 | 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授 | 薬科学 | 機能性食品成分として知られるオメガ3 脂肪酸の新たな作用機序の解明研究 |
| 33 | 大黒 亜美 | 広島大学大学院 統合生命科学研究科 助教 | 細胞生物学・ 脂質代謝 | 長鎖不飽和脂肪酸のエポキン体に着目した脳機能における作用解析 |
| 34 | 田中 保 | 徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 教授 | 脂質生化学 | 新規植物スフィンゴリン脂質、ファイト型セラミド 1-リン酸の消化吸収と動物細胞への作用を調べる |
| 35 | 武谷 立 | 宮崎大学 医学部 教授 | 薬理学 | 細胞の集団遊走における細胞間相互作用とそのダイナミクス |

(2) 顕彰事業（第1回小林賞）

①公募期間：令和元年7月30日～9月27日

②令和元年12月23日開催の小林賞選考委員会において、国立研究開発法人理化学研究所生命医科学研究センター長から推薦のあった、同研究センター粘膜免疫研究チーム 主任研究員・チームリーダーの「シドニア ファガラサン博士」を受賞候補者として選定、理事長は、同氏を「第1回小林賞受賞者」として決定し、推薦者及び受賞者に通知した。

II. 処務の概要

1. 会議等に関する事項

(1) 理事会

| 開催年月日 | 議 事 事 項 | 会議の結果 |
|-----------------------|---|--|
| 平成31年4月1日 (決議の省略) | 1. 小林賞選考委員会規程の制定について 2. 選考委員の選任について | 全会一致で承認・可決 |
| 平成31年4月26日 (決議の省略) | 1. 平成31年度(第18期)奨学生の決定について | 全会一致で承認・可決 |
| 令和元年6月6日 (決議の省略) | 1. 評議員候補者の推薦について | 全会一致で承認・可決 |
| 令和元年6月7日 | 1. 平成30年度事業報告及び収支決算について 2. 職務執行状況の報告について(報告) 3. 顕彰事業の創設及び財団の名称変更について(報告) | 全会一致で承認・可決 |
| 令和元年6月24日 (決議の省略) | 1. 理事長、副理事長及び常務理事の選任について | 全会一致で承認・可決 |
| 令和元年12月27日 (決議の省略) | 1. 第8回(令和元年度)研究助成の決定について | 全会一致で承認・可決 |
| 令和2年1月17日 (決議の省略) | 1. 第1回小林賞受賞者の決定について | 全会一致で承認・可決 |
| 令和2年1月24日 (決議の省略) | 1. 令和元年度臨時評議員会の開催及び招集について | 全会一致で承認・可決 |
| 令和2年2月21日 (決議の省略) | 1. 評議員候補者の推薦について | 全会一致で承認・可決 |
| 令和2年3月6日 (決議の省略) | 1. 評議員選定委員の選任について | 全会一致で承認・可決 |
| 令和2年3月6日 (決議の省略) | 1. 令和2年度事業計画及び収支予算について 2. 選考委員の選任について 3. 株主権の議決権行使について 4. 令和2年度定時評議員会の開催について 5. 職務執行状況の報告について(報告) | 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 全会一致で承認・可決 |

(2) 評議員会

| | | |
|---------------------|---|------------|
| 令和元年6月6日 (決議の省略) | 1. 役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程の改正について | 全会一致で承認・可決 |
| 令和元年6月24日 | 1. 平成30年度事業報告について(報告) 2. 平成30年度決算の承認について | 全会一致で承認・可決 |

| | | |
|---------------------|---------------------------|------------|
| | 3. 役員（理事、監事）の改選について | 全会一致で承認・可決 |
| 令和2年3月6日 (決議の省略) | 1. 令和2年度事業計画及び収支予算について | 全会一致で承認・可決 |
| | 2. 選考委員の選任について（報告） | |
| | 3. 株主権の議決権行使について（報告） | |
| | 4. 令和2年度定時評議員会の開催について（報告） | |
| | 5. 職務執行状況の報告について（報告） | |

(3) 選考委員会

| 開催年月日 | 議 事 事 項 | 会議の結果 |
|------------|---|--|
| 平成31年4月9日 | 平成31年度奨学生の選考 (申請者数：一般奨学生41名、特別研究奨学生8名) | 書類審査により、一般奨学生34名、特別研究奨学生5名の計39名を新規に選考 |
| 令和元年12月17日 | 令和元年度研究助成の選考 (申請件数：55件) | 書類審査により、新規に35件を選考 |
| 令和元年12月23日 | 「第1回小林賞」の選考 (申請件数：15件) | 書類審査により、国立研究開発法人理化学研究所生命医科学研究センター粘膜免疫研究チーム主任研究員・チームリーダーの「シドニア ファガラサン博士」を選考 |